

動画コンテンツを用いた情報発信の試み

—補装具・日常生活用具・UD (Universal Design) 家電を中心に—

The use of video content to deliver information -assistive devices, assistive devices for daily living, and universally designed electrical appliances-

奈良 里紗・村上 卓也・渡邊 和宏・山本 紗未・佐藤由希恵

Risa NARA, Takuya MURAKAMI, Kazuhiro WATANABE, Sami YAMAMOTO, Yukie SATO

(視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”)

(Lifestyle support Association for partially sighted and Blind)

要旨：

本報告では、動画コンテンツを用いた情報発信の試みとして、視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa” が制作した補装具や日常生活用具について紹介する動画コンテンツ “viwa tube” と視覚障がい者にとっても使いやすい市販品を紹介する動画コンテンツ “viwa shop” について取り上げた。各コンテンツとともに、“基本操作編”、場面に応じた“活用編”、メーカーと当事者との“座談会編”の3部構成であった。viwa tube の事例として拡大読書器を取り上げ、その機能を紹介した。その結果、購入前後の当事者や最寄りの販売店等で実物を見ることができない地方都市に居住する当事者等に有効的な情報発信の方法であることが示唆された。viwa shop の事例として音声ガイド機能搭載のオープンレンジを取上げ、実際にどの操作まで音声ガイドがあるか紹介した。今後はさらにコンテンツを充実する事が課題である。

キーワード：補装具、日常生活用具、UD家電、動画コンテンツ

1. はじめに

視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa” (以下、当団体と称す) は、視覚障がい者やその家族、支援者の方々に様々な情報提供を行うことを目的に活動している (奈良・山本・渡邊・村上・岩池, 2013; 奈良・村上・渡邊・山本・佐藤, 2017)。本報告では、情報提供活動の一環である動画コンテンツを用いた情報発信の試みについて報告する。

2. 目的

拡大読書器や弱視眼鏡等の視覚障がい者の QOL (Quality of Life) 向上に寄与する日常生活用具や補装具には様々な種類がある。例えば、拡大読書器ひとつとっても、複数のメーカーから機能の異なる製品が販売されている。視覚障がい者が拡大読書器について情報を得るためには、各地で行われている展示会、眼科や視覚障害特別支援学校、眼鏡店等で確認する必要がある。しかし、全国どこでもそういった環境が整っているわけではなく、大都市圏以外の地方では、製品を見る機会が少ない状況にある。また、た

また見た1種類の拡大読書器を見て、他のメーカーの製品を確認する事なく、購入を決めざるをえないこともある。各メーカーは、視覚障がい当事者により良いものを提供しようと日々尽力しているが、肝心の視覚障がい当事者が製品を比較検討する機会が少ないことが課題である。

また、日常生活用具や補装具のように、視覚障がい者向けに販売されているものではないが、UDに配慮された製品で、視覚障がい者にとっても使いやすい製品も販売されている。市販品においても、各メーカーが当事者へのユーザビリティ調査等を経て、視覚障がい当事者にとっても使いやすい製品を生み出しているが、肝心の視覚障がい者にその情報が届いていない現状がある。

そこで、当団体では、日常生活用具や補装具のように視覚障がい者向けに販売されている製品について紹介する動画コンテンツ“viwa tube”と、UDに配慮されていて視覚障がい者にとっても使いやすい市販品について紹介する“viwa shop”の2つの動画コンテンツを制作している。本報告では、これまでに取り上げた製品の幾つかを紹介し、視覚障がい者に関わる方々への情報提供の有用性を論じる。

3. 方法

2017年12月現在、当団体のブログ上に公開または公開予定の動画コンテンツのうち、視覚障がい者向けの補装具や日常生活用具等を紹介する“viwa tube”、及び、視覚障がい者にとっても使いやすい工夫がなされた市販品を紹介する“viwa shop”の2種類を対象とした。

4. 結果と考察

4.1. “viwa tube”について

2017年12月現在“viwa tube”では拡大読書器を中心に紹介されていた（株式会社インサイトや日本テレソフト等）。動画の構成は、基本操作編・活用編・座談会編の3部構成で、基本操作編では、拡大読書器の基本的な機能について紹介、活用編では、就労場面で薄い罫線の伝票に文字を書かなくてはならないときにコントラストを明確にする機能があること、電話応対

の際に自分の席を立たなくても、遠い所にあるホワイトボードを見ることができ、作業効率を上げるのに役立つこと等、実際に職場や学校で利用するとき、どんな場面で活用できるかを中心に紹介されていた。座談会編では、メーカーサイドから商品の特徴を説明してもらったり、その商品を販売するに至った経緯等が紹介されていた。

有用性を確認するために動画公開後に、何人かの当事者からフィードバックを得たので紹介する。拡大読書器の購入を検討していたAさんは、一般的によくある据え置き型の拡大読書器しか存在を知らなかった。“viwa tube”で、遠近両用の据え置き型拡大読書器の存在を知り、一度、見たいと思った。ところがAさんが居住していた地域の販売店にはこの機種は置いていなかった。しかし動画により、販売店にない場合には、問い合わせれば、取り寄せできることを知り、実物を見た上で購入を決めることができた。他方、Bさんは拡大読書器を購入後、この動画を見た。電源のオンオフや拡大・縮小、反転機能といった基本的な操作については知っていたが、マスキングやフォーカス機能、伝票等の薄い罫線を見るときの方法等、他にも自分にとって便利な機能があることをこの動画により知ることができたという。また、メーカーも全ての利用者に使い方を教えることができないため、この動画をユーザーに紹介しており、重要な情報発信源として利用されていた。ただし、この動画はあくまでも商品の機能や使い方を紹介する入り口としての位置付けであるため、視覚障がい者の見え方に応じた専門的な指導・訓練は必要である。この動画を見ただけで、拡大読書器が使いこなせるというものではないことを書き添える。

4.2. “viwa shop”について

“viwa shop”では、音声ガイド機能を搭載した家電や使いやすさに配慮された家電、おしゃれな白黒反転手帳等、一般に市販されている商品であるが、私たち視覚障がい者にとっても使いやすい商品について紹介している。ここでは、動画コンテンツとして紹介して欲しいという要望の多かったオープンレンジ（電子レンジ機能

付オープン) を一つの事例として報告する(対象機種:三菱電機レンジグリル「ZITANG」RG-HS1)。

近年のオープンレンジは温める機能以外にも多機能になっている商品が多い。しかし、私たち視覚障がい者は頭の中で記憶している操作を繰り返し使う程度で十分に使いこなすことができていない。自分たちも同じように色々な機能を使いたい、そんな願いを叶えてくれるオープンレンジについて紹介している。動画の中では、基本操作編として、まずどんな操作を音声でできるのか、全盲の方が説明を受ける内容であった。そして、活用編として焼き魚の調理と一日経過したコロッケの再加熱調理の2つの方法を紹介、最後に座談会編という4つの構成であった。この商品では、ほとんどの操作を音声で行うことができた。また、ボタンを押すとガイドランプが点滅するので直感的に操作がしやすくなっていた。説明を受けた全盲の方も「これなら全盲の僕でも安心して色々な機能を使うことができそうですね」と話していた。焼き魚編では、鮭を焼いたのだが、ほとんど準備は必要なく、生魚をレンジ機能で加熱し、その後、自動でグリル機能で焼き上げることができた。視覚障がい者の場合、焼き加減を視覚的に確認することが難しいことから、外食でしか焼き魚は食べないという人もいる。この商品はレンジ機能で確実に火を通してくれるという意味で大変安心して使うことができる。さらに、グリルで魚を焼いた場合に、グリルのお手入れに難しさを感じる視覚障がい者もいる。例えば水を入れたグリルを引き出すときに、熱くなった水をこぼしてしまったり、使用済みのグリルを台所で洗うまでに水をこぼしてしまったりするのである。この商品では、水を使わずに魚を焼くことができる。また、魚を焼くと臭いが製品本体の中に残りなかなか消えない。しかし、この商品には脱臭機能がついているため、臭いを気にすることなくお魚を調理することができる。コロッケの再加熱調理では、購入から一日が経過したコロッケを再加熱するという内容であった。一日経過したコロッケは“しなしな”になっているのだが、これを揚げたてのように再加熱するこ

とができるという。こちらも特に準備することではなく、再加熱のモードを選択するだけでできた。この他、油を使わないから揚げ等の調理もこの商品ですることができた。こういった様々な調理方法についてはメニューブックとして製品の付属品で提供される場合が多いが、視覚障がい者にアクセシブルな状態で提供されることはほとんどない。この商品については、メニューブックをサピエ図書館でダウンロードできるようになっている。細かい所まで配慮されている点から、この商品を開発している企業の熱意が伝わってくる。座談会編では、なぜ、このような音声ガイド機能搭載の家電が開発されたのか、その背景を開発者の方が語る部分からはじまった。この家電には、愛着表現として、オープンレンジが「こんにちは」「温めがんばります」「上手にできましたか？」等と操作の前後で話しかけてくれる。動画内でも、「こんにちは」とオープンレンジに話しかけられた出演者が思わず「こんにちは」と返事をする場面もみられた。この他にも、お酒を缶ごと温められる機能、お手入れがしやすいデザイン、ふっくらお魚調理、コンパクトで加熱性に特化した設計、開発者おすすめのレシピ等を紹介している。

5. おわりに

“viwa tube”、“viwa shop”の撮影を通じて感じることは、視覚障がい者のQOL向上のために商品開発する方々がたくさんいることである。彼らの日々の活動により、私たち視覚障がい者のQOLが知らず知らずのうちにより良いものになっている。こういった方々の存在に感謝すると同時に、視覚障がい当事者は、これらの商品に対して良い所、改善して欲しい所、開発者への感謝の気持ちを伝えることが大切であると感じる。商品の至らない所をクレームすることは簡単であるが、これらの商品に対して良い所をフィードバックする機会が不足しているのではと感じる。また、視覚障がい者を支援する専門職の立場から、こういった商品の情報にアンテナを張り、視覚障がい者に紹介すること、また、専門家の立場から開発者へフィードバックすることも有意義であると考えられる。

文献

- 1) 奈良里紗・山本紗未・渡邊和宏・村上卓也・岩池優希 (2013) 視覚障がい者支援におけるソーシャルメディア活用の可能性. 視覚リハビリテーション研究, 2(2), 67-70.
- 2) 奈良里紗・村上卓也・渡邊和宏・山本紗未・佐藤由希恵 (2017) 視覚障がい当事者団体の情報発信の特徴—5年間のブログ記事に対する—考察—. 視覚リハビリテーション研究, 6(1), 23-25.
- 3) 株式会社インサイト「オニキスデスクセット HD」<http://www.s-insight.jp/images/products/11/catalog.pdf>
- 4) 株式会社日本テレソフト「acrobat HD」http://www.nippontelesoft.com/menu/zoom_011.html
- 5) 電機レンジグリル「ZITANG」RG-HS1 <https://www.mitsubishielectric.co.jp/sq/assist/rakuraku/rangegrill/>